

報告日 令和7年10月15日

報告回次 3日目

令和7年度 地域情報化アドバイザー制度活用報告書

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

1. 申請団体情報

1-1. 申請団体

団体名	庄原市			代表者名	八谷 恭介
担当者部署(属性)	情シス担当	担当者部署名	企画振興部企画課	連絡先電話番号	0824-73-1148
担当者役職	専門員	担当者氏名	小川正夫	連絡先E-mail	
住所	727-0085 広島県庄原市中本町1-10-1				

1-2. 推薦団体（「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力）

団体名		連絡先部署			
担当者氏名		連絡先電話番号		連絡先E-mail	

1-3. 支援を求める内容

支援方法	職員向け啓発・研修（単独）	事業名	DX推進加速事業		
概要	前年度のDX推進研修によりデジタル変革の重要性についての職員・管理職の理解は進んだため、組織の抱える課題についてどのように変革を行うか、他の自治体でのデジタルツール活用の具体的な事例等を参考にしながら自ら考え、計画・実践できるようにするもの。				
支援を求める分野	人材（DX推進のための機運の醸成） 人材（DXに関する知識習得・研修・育成）				

2. 地域情報化アドバイザー派遣実績

2-1.

対応日・時間	期日・支援内容の変更あり	受付番号	変更後の派遣日	変更後に実施した支援内容	実地/オンライン
	有	631	令和7年10月2日	支援・助言&講演	実地
	派遣日予定日（申請書より）	支援内容（申請書より）	開始時刻	終了時刻	内休憩時間（分）
	令和7年10月3日	講演&フォローアップ(実地)	8時45分	15時45分	60
				活動時間（分）	360

2-2.

派遣場所	会場名	庄原市役所	最寄駅	備後庄原
	所在地	広島県庄原市中本町1-10-1	最寄駅からの交通手段	最寄駅からは徒歩約10分

3. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	藤井 靖史
評価	大変良い
上記評価の理由（どのようなところがよかったか等詳細に）	前回の研修で抽出された「情報の共有」と「DX人材の育成」という課題を深掘りするため、継続してワークショップ形式で管理職向け・一般職員向けそれぞれの研修を実施。研修では、アドバイザーによる組織横断のタスクフォースの考え方やサービスデザイン手法に関する講義の後、「業務マニュアルの作成」と「DXの基礎学習」をテーマに、課題の構造化と解決策のアイデア創出にグループワークを実施。今回の研修後アンケートでも「有意義」等の高評価の回答が極めて多かったほか、次の一手を探るための定量的・定性的な意見も収集できた。
アドバイザーへの要望事項	今後も本市の組織全体でのDXの醸成やDX推進計画策定について俯瞰視点から助言をお願いしたい。

4. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

4-1. 支援を受けた対象者

属性	属性（職員、一般、企業等）について【自由記述】		合計人数	54人
	自治体職員	住民	企業・団体	その他(学生など)
人数	54	0	0	0

4-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果

事業の課題・問題点（具体的にご記入下さい）	人口減少・少子高齢化が進む中山間地域に位置し、税収減少や労働不足等の状況が間近に迫っているため、課題解決のためにデジタルを活用した業務変革が必要だが、職員の意識改革やDXツール活用がまだ一部に留まっている。今年度は、DXに比較的慎重だった庁内体制が転換することとなったが、どのようにDXを推進していくかの共通認識を形成していく必要がある状況。
支援により目指す成果（具体的にご記入下さい）	職員・管理職・トップ層がDX推進の重要性を理解して共通認識として形成し、自ら課題を発見し解決に向けて行動できる組織文化が醸成されることを目指す。また、他の自治体の具体的な事例等も参考にしながら、自らの抱える課題についてデジタルを活用した業務改革として実施していく全庁的なDX推進の機運を醸成し、第2期のDX推進計画の構築やアクションプラン検討等を行う。
アドバイザーに支援を受けた内容（具体的にご記入下さい）	前回は管理職向けと一般職員向けに課題解決に取り組むためのDX推進のワークショップ研修として実施し、庁内の情報共有やDX人材の育成が重要な課題であることを研修参加者と共有できた。このため、今回もこれらの課題について継続して取り組むためのワークショップ研修として実施し、アドバイザーから組織横断で時限的に取り組むタスクフォースでの推進等についてあるべき姿や他団体の事例の講義を受け、「業務マニュアルを作成する」「DXにの基礎を学ぶ」という具体的な課題のタスクフォース作りに関するグループワークのファシリテーター役を担当いただいた。

支援を受け改善又は解決された内容 （具体的にご記入下さい）	DXにおけるトップの関与の重要性について助言を受けて、前回に引き続き今回もCDO（副市長）に研修の冒頭に出席してもらい、管理職や多くの職員とCDOとでDXの重要性や市の第2期のDX推進計画策定の方向性について共有できた。また、前回（第2回）の研修で特定された「情報共有」と「DX人材育成」という抽象的な課題に対し、今回の研修でもワークショップを通じて一般職員と管理職との間の「視点と立場の違い」を明確化・可視化することができた。	
具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。	⑥途中段階であり、具体的な成果物はできていない
	現在のところ具体的な成果物はまだ存在しないが、8月と今回と実施した管理職・一般職向けの各DX推進研修により第2期のDX推進計画策定の方向性を共有できた。今後も次期のDX推進計画の策定過程において、DX人材育成や情報の共有に係る戦略を重点的に検討していく予定。	
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 （具体的にご記入ください）	管理職は「組織全体をどう動かし、成果を出すか」というマネジメントの視点で捉えているのに対し、一般職員がDX推進を「日々の業務とどう両立させるか」という実践的な担い手の視点で捉えていることが明確となったため、一般職員の挑戦に対しての表彰制度などの仕組み作りや管理職からの日々の支援などの環境づくりなど相互に補完し合える対応について今後検討していく予定。	
アンケートの内容と分析結果	講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。（EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。） アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。	
	研修の受講者アンケートでは「とても有意義だった」「有意義だった」が一般職員で約8割、管理職で約9割など非常に高い評価であった。	
4－3. 今後の計画	最も当てはまるものをリストより選択下さい	③現段階では課題・問題が残っているため未定
	次年度にかけて次期のDX推進計画を策定予定であり、DX人材育成について重点的に検討して行く予定。並行して組織横断のタスクフォースでのDXに取り組んでいく予定。	
4－4. 事業の最終的な目指す姿	職員や管理職が自課の課題についてデジタルを活用した改革を主体的に考え、行動できるようになる組織文化を醸成し、組織として柔軟性を持ちながらDX推進を通じて持続可能な地域社会を実現することを目指す。	

5.報告書に関しての地域情報化アドバイザーホームページ「派遣事例」への掲載許可

掲載許可	<input type="radio"/> 掲載可
------	---------------------------

https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good-practices/past_year_all_houkoku/

なおくその他>を選択した場合、具体的な記入が必要となりますのでご注意ください

6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

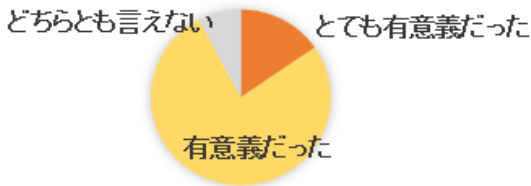
今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真（JPEG等）」を数枚程度貼り付けて下さい。

■DX推進研修（ワークショップ）の様様



■アンケート集計結果

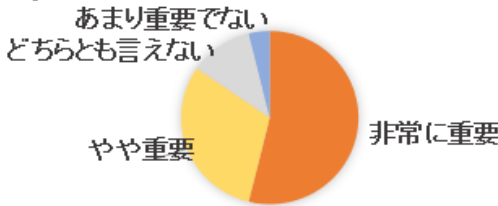
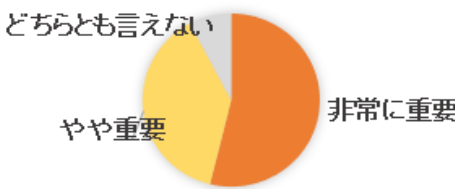
1.研修全体の有意性 【管理職向け】



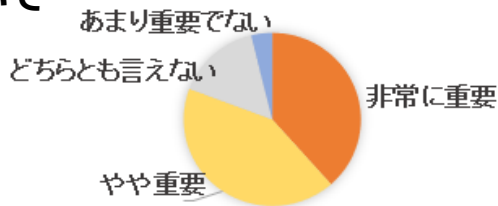
【一般職員向け】



2.テーマ1「業務マニュアルを作成する」の重要性について



3.テーマ2「DXの基礎を学ぶ」の重要性について



4.タスクフォース活動の今後の継続について

